



学校だより 枕崎市立別府中学校

令和6年12月18日

第9号

別府の風

別中ブログ



「共に生き 共に学び 共に叶える ～別府の絆を誇りに～」

一校一風「礼を正し 時を守り 場を清める」

「みんなが笑顔で過ごせる世界に」

校長 真茅 孝洋

去る11月18日、本校2年生の書いた意見文が、「若い目」に掲載されました。「みんなが笑顔で過ごせる世界に」というタイトルで発表された文章には、最近の世界情勢や修学旅行での学びから感じ取ったことから、「差別をせず、一人一人がお互いを認め合ってみんなが笑顔で過ごせる世界に早くなってほしい」という願いが切々と訴えられていました。

保護者や地域の方々の日にもとまり、共感の声をいただいていたところでした。ウクライナ情勢やイスラエルとパレスチナの紛争問題を報道等で目にする機会も増えており、まさにその通りと改めて感じていたところ、その反響は大きく広がり、11月30日には「『笑顔の世界に』思いを広げたい」というタイトルで、日置市の方からも、「ひろば」欄に感想をいただくまでになりました。投稿の内容は、父親を先の戦争で亡くされたご自身の体験を踏まえ、「大切なことは戦争を起こさないことです」と書かれ、「同じよう思いが広がっていくことを願っています。」と締めくくられていました。新聞の投書欄でつながった「みんなが笑顔で過ごせる世界に」という思いが、もっともっと広がってくれることを私も願っています。

また、12月4日から10日まで「人権週間」でした。人権週間は、国際連合が世界人権宣言の採択日である12月10日を「人権デー」と定め、全ての加盟国に人権活動を推進するための行事を呼びかけたことに基づき、日本では毎年12月4日から10日までを「人権週間」として人権啓発活動が行われています。今年のキャッチコピーは、【「誰か」のこと じゃない】。その言葉どおり一つ一つの出来事を「他人事」ではなく「自分事」として捉えていければ、世界は変わっていきけるのではないのでしょうか。本校でも、全学年の道徳の時間に、それぞれが人権について考えました。3年生は道徳の時間に拉致問題について考えました。過去、本県でも吹上浜で同じような事件が発生している話を聞いたことがある人もいることでしょうか。一口に人権問題といっても、その種類はさまざま多岐にわたります。まずは身近な問題を知るところから始めてみてはどうでしょうか。

さて、令和6年も残すところあと10日ほどとなりました。学校の関連行事も21日の午前中に、別府校区老人クラブ連合会と別府地区公民館の協力を得て「そまんずしづくり」が、また、午後からは、別府中おやじの会の主催で「門松づくり」が計画されています。

保護者、地域の皆様方にさまざまな面でご支援、ご協力をいただき、令和6年も無事に終えることができそうです。本当にありがとうございました。引き続き、3学期もよろしくお願いたします。

それでは、よいお年をお迎えください。

校内駅伝大会

12月10日(火)に「校内駅伝大会」を実施しました。雲一つない快晴の中、子供たちは持てる力を存分に発揮し、精一杯走る姿が見られました。また、本校はロードレーススタイルではなく、駅伝スタイルをとっております。みんなで力を合わせて襷をつなぎ、最後まであきらめることなく、走り抜く楽しさを実感していました。1本の襷を5区間でつなぎ、一生懸命走る姿に感動しました(男子は3km、女子は2km)。沿道では、たくさんの保護者・地域の皆様が温かい声援をしていただき、その声援に子供たちは普段以上の力を発揮しているようでした。また、子供たちの中には、朝ランに継続して参加し、タイムを少しでも縮めるために努力を惜しまない生徒の姿も見られました。今後も継続して、朝ランに取り組み、体力向上のためにがんばってほしいものです。



年の瀬は、生活習慣の乱れに要注意

毎年12月になると、「年の瀬」という言葉をよく耳にします。なんとなく使っていますが、きちんとした意味を理解している人は少ないようです。年の瀬の「瀬」にどうやら深い意味があるようです。

「瀬」を辞書で調べてみると「歩いて渡れる程水深が浅い川で、水の流が速い場所」とあります。つまり「歩いて渡れるような気もするが、流れが速いため命がけで進まなければいけない」という意味が含まれているのです。

昔の人にとっての年末は、たまった支払い(ツケ)を精算し、新たな年を迎える準備をする重大な時期でした。ツケを支払わなければならないが、お金がなくなると年を越せなくなると年を越せなくなる切羽詰まった気持ちを、この「瀬」で表現したようです。

そろそろ「受験まで〇〇日」とカウントダウンが始まります。受験は大変な部分もありますが、知識以外にたくさんのことを学ぶこともできます。受験生にとって理想的な年末年始の過ごし方というものもきっとあるはず。少し危ない「瀬」を楽しむ気持ちで、気が緩みやすい時期をコントロールして過ごしてください。



「協力隊OBと留学生が先生～見える・学べる・世界の国々～」事業

12月14日(土)に体育館で全校生徒を対象に「協力隊OBと留学生が先生～見える・学べる・世界の国々～」事業として講師の木原和代さん(JICA海外協力隊)をお招きし、パラグアイについて講話していただきました。滞在した2年間の体験から得られた知識や経験、パラグアイの魅力や日本による援助、日本とパラグアイの違い等を詳細に講話していただきました。また、講話の最後には挑戦することやチームワークの大切さについて熱弁していました。講話で学んだことを、今後の学校教育に生かしてまいります。



白澤文庫寄付金

山口県在住の白澤文吾さんより、今年度も別府中学生の読書活動に役立ててほしいという願いから寄付をいただいております。白澤文吾さんの温かい志とご支援に感謝し、今後も読書活動を推進してまいります。



受賞おめでとう

【第16回緑茶図画コンクール】

金賞 板敷未央

【県児童・生徒作文コンクール 枕崎市審査会】

入選 板敷真之介 床波聖珠 西之原桜伽

【令和6年度読書感想文コンクール】

入選 下山姫琉 恒吉瑛里奈 白澤椿

佳作 俵積田杏悟 板敷未央



伝統料理「そまんずし」の持つ意義!

◆12月21日(土)に別府センターで青少年講座「高齢者と子どもたちとのふれあい交流そまんずし作り」が開催されます。みなさんはそまんずしの由来について知っていますか。



「そばのぞうすい」→訛って「そばんぞうすい」→さらに訛って「そまんずし」という説が有力のようです。そばずい・そばじゅいとも言われる南薩地域の郷土料理です。昔の別府は水が少なくお蕎麦が主食だったそうです。そこで「そまんずし」が生まれたので。

鹿児島県の玄蕎麦生産量は、実は何と全国2位!みんな原料で売ってしまうから意外に知名度は上がらないそうですが、鹿児島独特の蕎麦文化と伝統が根付いています。高齢者に教えてもらうことは大変貴重な経験です。是非、参加しましょう。

1月の主な行事予定

1(水)	元日
8(水)	始業式・大掃除・給食あり
9(木)	第4回実力テスト(3年)
11(土)	土曜授業
13(月)	祝 成人の日
15(水)	鹿児島学力・学習定着度調査(1・2年)1日目 読み聞かせ(おひさま)
16(木)	鹿児島学力・学習定着度調査(1・2年)2日目
17(金)	市民あいさつ運動、私立高校入試事前指導
19(日)	小中合同空き瓶回収(中学校担当)
24(金)	SC来校(午前中)
31(金)	別府中学校入学説明会(小6児童対象)

